

# 京都府立植物園100周年未来構想の概要

## 1 策定の趣旨

2024年に開園100周年を迎えることから、「生きた植物の博物館」の理念のもと、府民目線でさらなる魅力創出に向けハード・ソフト両面を見据えた未来構想を策定

## 2 現状と課題

「府立植物園『魅力あふれる施設』整備計画」(平成21年度策定)により、これまで順次魅力向上・発信のための施設整備を実施。今後、さらなる魅力やサービスの向上・機能強化はもちろんのこと、北山文化環境ゾーンやその周辺地域との幅広い連携と調和を図ることが求められている。

## 3 植物園100周年に向けた取組の方向性

植物園単体ではなく北山文化環境ゾーンの立地施設をはじめ、その周辺地域との連携と調和を考慮しながら、以下の方向で取組を推進

### (1) 植物園のさらなる魅力向上や来園者の利便性・快適性の向上

- ◇ ビジターセンター、ショップ、カフェ等を備えた複合的な正門エントランスの整備
- ◇ 観覧温室の建替え・大規模改修等の検討着手(工法・資金調達手法の検討等)
- ◇ わかりやすく親しみやすい解説・展示や多言語対応、AR・VR等先端技術を活用した新たな展示企画 など

### (2) 教育・学習・研究及び希少植物保全に向けた機能強化・体制整備

- ◇ 教育・学習・研究機能の充実・強化を図るための学芸員等の配置
- ◇ 植物園として不可欠な植物標本庫、常設展示室、図書コーナー等の整備
- ◇ 課外授業や修学旅行に年間を通じて対応できる教育プログラムの確立 など

### (3) 来園者サービスの向上に向けた柔軟で弾力的な企画及び管理運営

- ◇ これまでにない柔軟な発想による来園者サービスの提供
- ◇ 開園時間の弾力化など、柔軟で弾力的な管理運営
- ◇ 民間のアイデア・ノウハウの導入による植物園のポテンシャルを活かした行催事の開催 など

### (4) 北山文化環境ゾーン全体とのソフト・ハード両面での連携の推進

- ◇ 民間のアイデア・ノウハウを活用したエリアマネジメントにより、終日ゾーン及びその周辺地域で楽しめる仕掛けの構築
- ◇ 旧総合資料館跡地等を活用した施設整備を見据えた植物園の整備
- ◇ ゾーン内に立地する各施設との垣根をなくした連携 など

## 4 取組を推進する上での留意点

- ◇ 施設整備では民間のアイデアやノウハウ、資本等の活用について検討が必要
- ◇ 運営では多様な主体と連携して業務ごとにそれぞれの特性を活かした最適な運営形態について検討することが必要
- ◇ 積極的な財源の確保に配慮が必要
- ◇ 北山文化環境ゾーン内の立地施設や、旧総合資料館跡地等を活用して整備される施設等との連携・協働の一層の推進が必要